



医療と福祉のサポート室たより



2022年5月発行 新潟医療センター 医療と福祉のサポート室

『医療と福祉のサポート室』をご支援いただきありがとうございます。
昨年院内向けに発行しておりました「医療と福祉のサポート室たより」を病院外の方にも見ていただきたく、病院ホームページにも掲載することになりました。
今回は、医療福祉相談室に4月から着任した職員紹介です。



新しく着任しました！

4月に医療福祉相談室へ配属され、入院支援看護師となりました。
今まで病棟・外来勤務を経験してきましたが、地域支援関係の業務は初めてとなります。
今後、皆様にご指導・ご協力いただきながら、たくさん学んでいきたいと思っています。

入院時支援とは、入院前から「入院生活」「退院」「退院後の生活」を見据えて行う支援です。入院生活だけでなく、入院前から退院後の生活までフォローすることで医療の質向上を目指していく役割を持たせていただいています。
患者様とご家族様が、安心して入院生活を送り、不安なく退院を迎えられるように、これまでの経験を活かして支援介入に励みたいと思います。多くの職種の方々にご助言いただきたく思いますが、よろしくお願いいたします。

高橋早苗

4月から医療福祉相談室に勤務しています。補助員という立場で、事務作業やカンファレンスに同行し、先輩方の背中を見ながら、MSWになるために日々勉強をさせていただいています。社会人としても一年目であり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

松山美夕凧

病棟・外来・検診センターを経て、地域連携支援部に配属されました。当部署では退院支援の担当をさせていただくことになりました。

8年程まえにも他院の医療連携室で勤務したことがありますが、その当時にはなかった入退院支援加算が診療報酬で新設されており、今までは退院に向けたサポートが中心でしたが、外来時からの退院支援に対してもサポートを行うようになりました。

当院でも、入院支援看護師が外来患者様の入院決定時点から、退院を見据えた介入を実施しています。入院後は退院支援看護師として、病棟や多職種との情報共有・連携を図り退院支援・調整を行うこととなります。しかし当時の記憶も薄れており、知識不足・経験不足を日々痛感しております。まだまだ至らない点が多々あるかと思いますが、患者様とご家族様が退院後の生活を見据え、療養場所や生活の場を自ら選択できるようサポートを行い、患者様と退院支援部門とを繋ぐ役割が少しでもできるよう努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

坂本裕美



よろしくお願いいたします！

今回は、第4回【こぼりの広場】の開催の様子をご報告いたします。

医療福祉相談室 MSW一同





医療と福祉のサポート室たより

2022年6月発行 新潟医療センター 医療と福祉のサポート室

『医療と福祉のサポート室』をご支援いただきありがとうございます。

昨年（令和3年）から、地域の関係機関とのオンラインミーティング「こぼりの広場」を地域包括支援センター小新・小針と共催しています。

今号では、第4回開催報告とともに昨年の振り返りをお伝えします。



こぼりの広場とは??



<目的>
 地域の関係機関における医療・介護・福祉の諸問題や解決策を現場目線の話し合い

- ・関係機関と病院との連携
- ・お互いの立場や役割の理解
- ・顔の見える関係作り

<方法と内容>
 ・ZOOMを用いたオンラインミーティング

参加者から話題提供し、現場目線での話し合いや率直な意見交換を行う

地域と病院が協働できる仕組み作りを行い、より良い患者・家族支援に繋げる

第4回 こぼりの広場開催報告

開催日：令和4年3月1日 16:30～ 参加人数 25名

内容：話題提供「高齢者の生活と服薬管理～外来診療から患者を支える連携医療へ～」

新潟医療センター 内科・循環器内科 富井亜佐子医師

（富井医師のスライドの抜粋）

高齢者の生活と服薬管理

～外来診療から患者を支える連携医療へ～



新潟医療センター内科・循環器内科
富井亜佐子

背景

- ・高齢者は生活習慣病や整形外科疾患など、複数の疾患を抱えていることが多く、長期的な内服治療を受けている。
- ・介護を必要とする高齢者では複数の薬の自己管理を行えないことがあり、飲み忘れによる体調不良で入院が必要になることもある。
- ・外来診療の中で、生活状況や服薬について確認し、家族やケアマネージャー、サービス担当者との連携が重要となる。

服薬を確実にするための工夫

- ① 一包装にする。
- ② お薬カレンダーや薬ボックスの利用。
- ③ いつも見る場所にメモ（お薬飲んでね）を置いておく。
- ④ タイミングを見て、家族が電話する。
- ⑤ 訪問薬剤指導を利用する。
- ⑥ ディサービスの時に確認する。



多職種・医療機関および地域での協働

多職種連携の役割

- 入退院の療養環境の変化に伴う医療機関等の協働
- 医療機関を超えた地域での協働

✓ 介護施設や在宅医療、外来等の現場でも、施設内又は地域内で多職種のチームを形成することが可能。
 ✓ 地域包括ケアシステムでの多職種の協力の下に、医師が処方を見直すことができるための情報の提供が必要。

厚生労働省：高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）P16～17、2018より一部改変

過去の内容

第1回（R3.7.27開催）参加人数 25名

- ・新潟市在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業について 新潟市地域医療推進課 斎川克之
- ・話題提供「身寄りのない方の支援をとおして」 新潟医療センター MSW 菅原邦子

第2回（R3.9.28開催）参加人数 31名

- ・話題提供「地域福祉・継続看護への外来での取り組み」 新潟医療センター外来主任看護師 矢部順子

第3回（R3.12.7開催）参加人数 26名

- ・話題提供「訪問看護ステーションにおける医療機関との連携について」 新潟こぼり訪問看護ステーション 主任看護師 河田加奈子

今までの参加者同士の意見交換やアンケートからの主な声

- ・ 普段の退院支援で話す機会の少ない病院スタッフ（医師や看護師）の意見や考えを聞け、良い体験になった。（院外）
- ・ 医療、介護それぞれの実情や困りごとなどを同時に話し合い、一緒に考えることができた。（院内/院外）
- ・ 病院も地域の支援者も、同じように、キーパーソンが不在な事例、身寄りがない事例の問題を抱えている。その解決は難しく、課題と考えていることが共有できた。（院内/院外）
- ・ 顔の見える関係作りができてよかった。（院内/院外）
- ・ 職種による視点の違いが参考になった。（院外）

☆新たな取り組みの「こぼりの広場」には、院内外から参加をいただきました。

院内：医師・看護師・地域連携支援部

院外：地域包括支援センター小新・小針、近隣の居宅介護支援事業所

西区健康福祉課高齢福祉係、新潟市在宅医療・介護連携ステーション西

☆令和4年度「第1回目こぼりの広場」は7/5（火）開催予定です。地域包括支援センター小新・小針から話題提供をいただく予定です。ご興味のある方は、「医療と福祉のサポート室」までご連絡ください。

医療福祉相談室 MSW 一同





医療と福祉のサポート室たより

2022年9月発行 新潟医療センター 医療と福祉のサポート室

いつも『医療と福祉のサポート室』をご支援いただきありがとうございます。
サポート室たより第7号をお届け致します！今回は、訪問看護の紹介です。



新しく着任しました！

今回希望が叶い4月25日より訪問看護に配属となりました。過去に南区で訪問看護の経験はありますが、現状では訪問看護の知識はゼロに等しく思いだしながら新しい事も学んでおります。南区と西区の利用者様の違いにも驚きながら、新鮮な気持ちで訪問看護をさせて頂いております。これまでの病棟や施設での経験を活かして地域の方々から信頼して頂ける様な訪問看護師を目指していきたいと思えます。宜しくお願いいたします。

新潟こばり訪問看護ステーション 看護師 霧巻美優樹



職員増員しました。引き続きご支援をお願いします。

新潟こばり訪問看護ステーションについて

新潟こばり訪問看護ステーションの管理者河田です。日頃より地域の皆様、関係機関の皆様には大変お世話になり心より感謝申し上げます。

当ステーションは、「看護や介護が必要になっても、自分らしく暮らしていきたい」を支援し、最期まで寄り添った看護を心掛け訪問しています。また、利用者様やご家族には、安心して生活していただけるために、24時間365日連絡が取れ、必要に応じて緊急訪問が可能な体制を取っております。

この度、看護師も一名増員となりましたので、いつでもご相談・ご依頼お待ちしております。今後とも宜しくお願いいたします。

新潟こばり訪問看護ステーション 管理者 河田加奈子

○サービス内容

- 病状、障害、全身状態の観察、療養相談、内服薬の管理
- 清拭や入浴などの清潔保持や食事、排泄等の日常生活の援助
- 褥瘡や創傷の処置、膀胱留置カテーテルの交換
- ターミナルケア等

○特徴

☆24時間365日対応

- 緊急時訪問看護加算を算定している為、夜間・休日でも連絡が取れる体制。
- 緊急時には必要に応じて訪問可能。

☆在宅看取り

- かかりつけの往診医と連携し、在宅での看取りにも対応。

○例えば、こんな時に訪問看護の利用を検討してみてもいい？

- 在宅酸素の導入にて退院。
実生活の中で、機器の管理が適切に出来ているか確認や相談にのってもらいたい。
入院中より活動量が増え、病状管理が出来ているか心配。入浴後は疲労感が強い為、訪問看護利用時に入浴支援をしてもらいたい。
- 入退院を繰り返している。
予約外での受診や電話相談が多い…自宅での体調の悪化には何か原因があるのかな…
内服管理や食事管理など訪問看護に関わってもらいたい



医療と福祉のサポート室たより

2023年2月発行 新潟医療センター 医療と福祉のサポート室

2023年 あっという間にひと月終わりました。改めまして、今年も『医療と福祉のサポート室』をよろしく申し上げます。おたより第8号をお届け致します！職員と医療福祉相談室の看護師の業務の紹介です。相談室には現在、退院支援看護師3名（チーフも含め）、入院支援看護師2名が在籍しています。今号では、第1弾として退院支援看護師の業務をご紹介します。



新しく着任しました！

10月に育休より復帰し、医療福祉相談室に配属となり入院支援看護師となりました。

就職してから産休に入るまで病棟勤務をしており専門的に入院と退院に関わることはなく、知識不足な点が多々あると感じていますが先輩方にご指導・ご協力いただきながらしっかり学んでいきたいと思っています。

入院支援看護師は、入院から退院後の生活までの流れを円滑にする役割があります。入院前から患者様に関わることで早期に患者様の退院後の生活を見据えることができ、患者様にあった関係職種との連携を円滑に行うことができます。病棟と協力していきながら、患者様や家族様が安心して入院し、退院を迎えられるように支援介入に励みたいと思っています。

患者様にとってより良い看護が提供できることだけでなく、外来や病棟の方々の業務軽減にもつながるよう頑張っていきます。よろしくお願いいたします。

入院支援看護師 倉持 明日香

9月より医療福祉相談室に勤務させていただきます。

他の病院での医療相談員の経験はありますが、新潟医療センターの規模・診療科の違い、各部署との情報共有や連携の方法も異なり、戸惑うことがまだ多いです。

多くの職種の方々にご指導・ご助言をいただくことと思いますが、よろしくお願いいたします。

社会福祉士 夏井 智恵子



医療福祉相談室の看護師の役割・退院支援看護師について

皆さん、退院支援看護師の仕事のイメージとはどんなものをお持ちでしょうか？
様々なイメージがあるかと思います（笑）



～社会背景～

- わが国は超高齢社会で、入院患者の大半が70歳以上の高齢者です。慢性疾患を有する人が増え、退院後も医療や介護が必要な人が増えています。
- 医療費高騰の抑制策として在院日数が短縮化しており、退院後も地域の中で高齢者を支える在宅医療や地域医療が重要視されています。

病院全体で、患者さんが安心して地域生活が送れるように退院支援の必要性が高まっています。

～主な業務～

- 退院支援カンファレンス：毎日入退院のチェックをして退院困難と思われる患者を予測し抽出し、退院支援カンファレンスに繋げています。
- ケアマネへの連絡：入院前の患者情報の聞き取りやサマリーの依頼。病棟と情報共有を行い、治療が進み、適切な時期に退院先の選定をケアマネと相談しています。
- MSWとの連携：身寄りなし・退院先が決まらない・新たな施設入所希望がある等、その患者さんの抱える課題によって、MSWの介入のタイミングを見定めて、病棟へケースワーク依頼の検討を発信しています。
- 在院日数の短縮化：長期入院患者（30日越え）を対象に、週1回副看護部長とカンファレンスを行い、問題の明確化、病棟師長へ情報提供・提案をしています。入院長期化の原因解明にも取り組んでいます。

当院では、1人の退院支援看護師が2～3病棟担当しています。院内・院外の多職種と協働し、患者さんと家族の思いをきちんと汲み取り、在宅や地域で望む生活ができるように、現状だけでなく今後の生活をイメージして退院支援をしています。意向を踏まえて、社会制度や社会資源の利用が必要な場合は、MSWに繋ぐ役割も担っています。

退院支援看護師が稼働し始めてから、ようやく1年が経とうとしています。まだまだ不慣れで、迷惑をおかけすることもあると思いますが、院内や地域との橋渡しができるよう努めていきたいと思っています。
(退院支援看護師 坂本)